

生徒指導提要

2022・9・30 重枝 一郎

「校長研修だより 24 号」を見てほしい。そこで、「**開発的生徒指導の実際**」というタイトルで、学級経営等につながる話を書いた。この「**開発的生徒指導**」という言葉は、現行の「生徒指導提要」の中で最も力を入れなくてはならないと言われている内容である。なぜならば、先手的ですべての生徒が対象になる取組であり、それゆえ授業化できるからである。

先日、高校3年生に対し「**人権学習**」を行った。人権教育には「**知的理解**」と「**人権感覚**」ある。今回は「**感覚**」をねらいとした。体育館で暑い中、生徒、先生たちにご迷惑をおかけしたが、活動の中で、実感を伴う“何か”をそれぞれにつかんでもらおうと思っていた。生徒もよく動いてくれて、私的にもいい時間になった。いくつかのグループワークの中で「みんなと目標を共有できるとこんなに楽しいし、学びが深まる」ことを少しでも実感してもらえたらいいと思っていた。**人権感覚**というものは、知識と違って即効性はなく、日常の積み上げが大切であり、つまり毎日の授業をはじめとするさまざまな場面での関わりの中で醸成されていく。(次号はこれに関連する「**マスターマインドグループ**」という話を出す)

さて、この「生徒指導提要」が今、文科省で改訂が行われている。学習指導要領の生徒指導版のことである。私の知る限りの「生徒指導提要」の歴史になるが、私が教師になったころは「**生徒指導の手引き(1965・1981)**」という名称でその時代の生徒指導の基本的な進め方を示していた。そこで示されている項目に「**生徒指導の類型**」があり、そのワードをもとにさまざまな生徒指導に対応していた。そのワードとは、「校長研修だより24号」でも紹介したが、「**積極的生徒指導**」と「**消極的生徒指導**」である。現場の教員には「問題行動を起こした生徒に対し、遅い時間まで苦勞しながら指導し、その後家庭訪問等を行い・・・」といったエネルギーをとても使う取組のことを「**積極的生徒指導**」と誤解している者も多かった。これは逆で、それは「**消極的生徒指導**」であるという定義であった。現場の教員には、こんなに苦勞しているのに「**消極的**」という表現であることで、ガクツとしたという声も聞いた。この「**積極的**」と「**消極的**」の違いは、先手的か後手的かということになる。問題行動を起こして対応することは、後手的であることから「**消極的生徒指導**」ということになる。では、先手的な取組というのはどのような事例があるかということ、例えば、朝校門であいさつ運動をしているときに、生徒がいつもと違う暗い顔をしていたから声をかける等のことを言う(平野生徒指導主事いつもありがとう)。私は若い頃、生徒指導主事をすることも多く、当時この「積

極的生徒指導」を「命を輝かせる生徒指導」,「消極的生徒指導」のことを「命を守る生徒指導」と言ったりもしていた。

2010年に「生徒指導の手引き」が改訂され、現在の「生徒指導提要」になる。ここでの生徒指導の類型は「開発的生徒指導」「予防的生徒指導」「問題解決的生徒指導」の3つになる。考え方は同じで、それまでの「積極的生徒指導」にあたるのが「開発的」「予防的」ということになる。つまり、「先手的」であるということである。では、「開発的」と「予防的」の違いはというと、先手的であるのは共通だが、「開発的」はすべての生徒が対象ということであり、「予防的」は一部の生徒が対象ということになる。そして、「消極的生徒指導」＝問題解決的生徒指導とうことであり、これは後手的であり、一部の生徒が対象ということになる。

私はこの説明を職員研修だけでなく、生徒の全校集会等でも話していた。高3の人権学習のねらいでも示したが、生徒とともに学校をつくるという観点で目標は常に共有するという考えであるからである。生徒に話すときは、山登りを例にとって話していた。『みんなで山頂からの素晴らしい景色を見る。これが最上位の目標になる。この山を登る体力や地図を読む力に当たるのが開発的生徒指導。少し体力的に無理がある生徒のリュックを軽くしたり、寄り添って登ったりするのが予防的生徒指導。山登りの途中で具合が悪くなって、担架で下まで運び病院まで連れていくのが問題解決的生徒指導。もし、担架で運ぶ人が多かったら、何が素敵な景色ですか、何がみんなで見ようですかってことになる。だから、自分たちの目標を達成するために大切なのは、先手的ですべての生徒が対象である開発的生徒指導に力を入れなくてはならない。そしてそれは基本授業になる。教科の授業もちろんだが、人間関係づくりの特別活動の時間も大切になる。学校行事も大切・・・』

そして今、この生徒指導提要の改訂が文科省で話し合われている。この秋に改訂版が出されるらしいが、目次の部分だけ手元に届いた。そこにある「生徒指導の類型」はこれまでの「開発的・予防的・問題解決的」から「発達支持的指導」「課題予防的指導」「課題解決的指導」という言葉になっていた。改訂版が出たら読んでほしい。おそらく生徒の基本的な人権に十分配慮した、一人一人を大切にしたい教育を求めた内容であることは想像できる。

また、「改訂生徒指導提要」の生徒指導体制についてのタイトルに「生徒指導と教育相談の一体的連携」がある。つまり、本校で言えば、「生徒指導委員会」と「保健委員会」を統合する感じになる。また、別のタイトルにQ-Uアンケート等での「アセスメントからのチーム支援」がある。本校では、先手的に「Q-Uアンケート」を今年度J2とJ3で試行的にやってみた（どうでしたか？）。どちらも実際的なチーム支援を目指すことを物語っていると思う。

別紙「日本教育新聞」：校則について、不適切な指導について、性的少数者など